る。國際聯盟、永久平和條約は世界革命の阻止をついて一應「資本主義經濟秩序の再建」に努力して來た、曰く産業の統制、曰く産業の合理化。かくて資本主義の相對的安定は曲りなりにも樹立されたのである。然し彼等の手段として採用されたこれ等の政策こそが、今次の世界恐慌の直接原因をなさんとは！安定はより大なる破綻への過程に過ぎなかつた。

恐慌の全般性、その深さと廣さのひろがりは現下世界恐慌の第二の特徴をなす。それは單に一國の恐慌に限られてゐるのでなく、單に一部門の恐慌に止まつてゐるのでもない。あらゆる資本主義國家を捲き込み、あらゆる經濟的部門に跨つてゐる。か〻る大規模にして全般的なる恐慌はかつて見ざるところであり、現恐慌の深刻さを如實に物語るものでなければならぬ。

恐慌の第三の特徴は、農業恐慌の勃發を伴して起つたことである。農産物の凶作にも拘はらず、またその豊作なるが故に起りつ〻ある農業恐慌は、今次世界恐慌の重大なる要因をなしてゐる。經濟復興の蔭に培はれ來つた農業生産力の過剩が、具體的形をなしたのが現次の農業恐慌に外ならぬ。かくして世界の資本主義諸國は、今、恐慌の眞只中にある！

この世界恐慌から脱出せんとする各國資本家階級の踠きは種々なる政策となつて現はれつ〻ある。曰く自由通商促進政策。曰く國際カルテルの設立。曰く産業合理化の强行。曰く國際的聯合。曰く關稅政策。相矛盾するやうに見ゆる、幾多の政策が採られつ〻世界恐慌の破壞性は益々深められて行く。その腐敗性は、國際として世界戰爭の危機を胎む。英米の對立、アメリカ對歐洲、資本主義國對ソヴイエート聯邦、植民地をめぐる革命の展望。國際政局は今何れの部分をとるも遠くべき戰爭の危機にさらされざるものなし。加ふるにこの尖銳化された國際的の對立は、國内的には階級對立の激化を背景としてゐる。慢性的失業の洪水をめぐる階級鬪爭の尖銳化、農業恐慌によつて促進された農村階級分化の發展。極端なる反動政治とこれをはね退けんとする民衆不滿の增大は國際政局の微妙なる關係と經緯して、無産階級運動の急速なる進展を導きつ〻ある。

二、我が資本主義の行詰りとブルジョア政黨

世界恐慌裡に金解禁を決行した我が國の經濟界は、今加重されたる恐慌の影響下に呻吟してゐる。金融ブルジョアジーに奉仕すべく、忽卒として金解禁を斷行し、百パーセントの金融資本臭を立證した濱口内閣も、現下の經濟不況に當面しては、呆然自失、唯一途民心の動搖を阻止せんとしてゐるに過ぎない。熟しつ〻あつた我國資本主義の矛盾は、決河の如く恐慌におし出されて來たのである。

後進資本主義として、あらゆる粗雜さと、脆弱さとを内包する我が國の資本主義も、帝國主義的擁護政策の下に僅にその矛盾を隱蔽し、世界大戰を契機として飛躍的の發展を遂げたのであるが、戰後における歐洲の經濟的復興がその緒につき、所謂相對的安定期の到來と共に、我々は却て恒性的の恐慌狀態を經[illegible]あるのであつた、かくして我國の資本主義は、大正九年の恐慌、大正十二年の震災、昭和二年における金融恐慌——と矢つぎ早なる動搖と混亂の間をもつて、破局への一路を辿るのみであつた。

この動搖と混亂とは、經濟界に於ける種々なる破綻の主たる原因をなすことは言ふまでもない。田中内閣より濱口内閣へ、積極政策より消極政策へもか〻る經濟的破綻のもたらした一轉回に過ぎぬ。

濱口内閣は「金解禁」を以て組閣の使命にした。蓋し、この方途に於て最もよくその經濟奉仕をなし得ると信じたからである。然しながらそれは、世界恐慌と合流することによつて、矛盾の擴大的再生産をもたらすに過ぎなかつた。これ正に現下の經濟恐慌に對する、ブルジョア政黨一般の無能力を暴露したものではないか。

（イ）濱口内閣の反動化 濱口内閣は最も大膽卒直なる金融資本の使徒であるが、彼は一定限度の『進歩性』を假託する事によつてこれをなさんとした。さればその組閣の使命たる金解禁政策を實行すると共に、その先行者田中内閣の冒した過誤を匡救すると稱し、『政治の公明』を叫び、『綱紀の廓正』を說き『社會政策の遂行』を約した。これは巧に民心に投じた。然し乍らそれ等の聲明は、少數黨たる民政黨に立脚した濱口内閣の看板であつて、絶對多數を擁したる濱口内閣は、もはやか〻るものを必要としない、唯本來の使命の遂行あるのみである。かくして濱口内閣の持てる本質的反動性は前面におし出されて來た。見よ最近の社會運動に對する暴壓振りを。これこそ、あらゆる自由主義的の假面に拘はらず、我が經濟界の行詰りが、極端なる資本主義安定策（産業合理化）と、民衆運動の彈壓の上に僅かに偸安を貪りつ〻あることを如實に示すものではないか。

濱口内閣は今民衆生活のために行ふべき何ものも有しない。その持てる切り札は全て出つくして了つた。從つてそれはまた現下の重大問題たる『失業問題』『農村の窮乏問題』に對して全く無政策である。濱口内閣は、自らの政策に依つて喚び起した諸々の矛盾を、自ら制御することが出來ず、徒らに狼狽を繰返すのみである。濱口内閣はたしかに自由主義である、がそれは民衆に餓死の自由を與へる自由主義だ！

（ロ）政友會の欺瞞政策 濱口内閣と對蹠の地位にある政友會も、その本質に於て何等異るところはない。唯その反動性と權力の行使に於てより果敢なるに過ぎぬ。政友會の何ものかを知るためには田中反動内閣二ケ年の政治を想起するを以て足りやう。

政友會は現下の經濟不況に當面して所謂『新經濟政策』を掲げ、頻りに民心糾合につとめてゐる。濱口内閣が『經濟的不況』に對して何等の對策なしとせるに反して、政友會が五ケ年計劃を高唱し、産業の振興を絶叫しつ〻あるは民心をつかむべき要因を有つてゐる。然しながら仔細にその政策を吟味するに、そは現下の經濟恐慌のもつ矛盾の科學的なる分析に出發せるに非ずして、實に政友會傳統の積極政策を漸襲せるものに過ぎない。その歸結は侵略政策であり